

## 新任教授紹介

本号では、獨協医科大学呼吸器・アレルギー内科の主任教授に新たにご就任された仁保 誠治先生をご紹介します。



話し手●仁保 誠治

獨協医科大学呼吸器・アレルギー内科 主任教授

聞き手●西條 長宏

医療法人社団友好会 副院長

### 仁保 誠治先生プロフィール

1993年広島大学医学部医学科卒業。1993年広島大学医学部附属病院内科、1994年中国労災病院内科で研修。1995年北九州総合病院内科。1996年国立がんセンター東病院呼吸器内科レジデント。1999年同 がん専門修練医、2001年同 医員。2009年同 臨床検査部生理検査室医長。2010年同 呼吸器内科病棟医長。2020年獨協医科大学呼吸器・アレルギー主任教授。日本内科学会認定内科医。日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医。



### 医師を目指したきっかけは

**西條** 本日は2020年4月1日に獨協医科大学呼吸器・アレルギー内科に赴任された仁保先生にお話を伺いたいと思います。まず、先生のご出身地を教えてください。

**仁保** 広島市に囲まれている安芸郡府中町で生まれ育ちました。自動車メーカーのマツダ本社がある地です。

**西條** 高校卒業後医師を目指されたわけですが、何かきっかけがあったのでしょうか。

**仁保** 中学生の頃に医師になりたいと思いました。医療事務の資格を持つ母がマツダ病院の小児科外来に勤務していて、私も診察などで小児科の先生と接する機会が多く、診療されている姿を拝見し、個人的に話を伺って“医師になりたい”と感じました。また、私が高校生のときに親戚ががんや心血管疾患で亡くなるのが続き、病気を治すことは大事な仕事だと実感しました。

「医師は自分の裁量で仕事ができるから、企業に勤めるよりもいい」と母は言っていましたが、必ずしもそうとはいえないところがあるかなと今では思うのですが。



### 広島大学で呼吸器疾患を学ぶ

**西條** 広島大学では呼吸器疾患に特化して勉強されたわけですが、どのような経緯だったのでしょうか。

**仁保** 卒業後に広島大学で2年間の内科ローテーションがあり、くじ引きの結果、最初に回ったのが第二内科でした。当時は山木戸道郎先生が教授で、第二内科で呼吸器と循環器を半年ほど研修して、その後、原医研内科(血液)と第一

内科(消化器)を回りました。呼吸器内科には肺がんの研究グループがあり、“よく学び、よく遊べ”という雰囲気でも楽しそうなグループでした。その頃、現在PMDA(独立行政法人医薬品医療機器総合機構)理事長の藤原康弘先生もいらっしゃいました。最初に仕事をしたのが呼吸器内科で、なおかつ上司の先生方が尊敬できる方だったということが呼吸器内科を選んだ理由です。

**西條** 私は仁保先生と2004~2009年に国立がん研究センター東病院でご一緒させていただいたのですが、山木戸先生が広島大学の教授の頃はたくさんの方が国立がんセンター(現・国立がん研究センター)にいらっしゃって、お世辞なしに皆さん非常に優秀でした。先生が呼吸器内科に在籍されていた頃は他にどういった方がいらっしゃいましたか。

**仁保** 一緒に仕事をしたことはないのですが、先輩に関西医科大学の倉田宝保先生や静岡がんセンターの高橋利明先生、国立がん研究センター中央病院の山本昇先生、島根大学の田村研治先生、後輩に静岡がんセンターの村上晴泰先生がおられました。

**西條** 卒後、中国労災病院、北九州総合病院で勤務されていますね。

**仁保** 通常は2年間の初期研修をして、その後入局となるのですが、私は広島大学附属病院の内科ローテーションを1年で切り上げて、2年目に第二内科へ入局しました。第二内科の関連病院である中国労災病院に2年目の初期研修で行き、その後、広島県外の病院での勤務を指示され、北九州総合病院で1年2ヵ月勤めました。

**西條** 国立がんセンターにレジデントとして来られたのは、どういった経緯だったのでしょうか。

**仁保** 藤原先生からお話をいただきました。広島とは異